

会議の名称	第2回タウンミーティング
開催日時	平成27年5月9日（土）午後1時～午後1時59分
開催場所	川渕地域防災コミュニティセンター 講堂
出席者	市長、副市長、総務部長、企画部長、秘書課長 参加者 66名
テーマ	市の防災について
質疑応答	
市民A	<p>どうもお疲れ様です。6年前に総代をさせていただきました。当時に比べまして、防災についてそれなりにいろいろな対応が進んできた先ほどの市長さんのお話を聞いて頼もしく思っておりますけれども、やっぱり、地域と市との情報のやりとりのところが一番欠けているのではないかと、先ほど市長もですね、各地域でどんな被害が起こっているのかということの吸い上げないと対応できませんよというお話もありましたけれども、そういうことが必要であれば、各防災会にこういうことをやってくださいと具体的に指示して進めていくことが必要ではないかと思えます。</p> <p>それと、いろんなことをするにあたって、今、市長さんがおっしゃったように財源的な問題があるよと。つい1か月前も中日新聞にですね、市民一人あたりの法人税率が尾張地区で愛西市はどん尻だと、トップは小牧市だとそういう情報が出てました。そういう中で市政を運営されていかれるのは非常に難しいと思いますけれども、やっぱり増収を考えていかなければいけない、それが先ほどの佐織地区の工業団地の誘致でしょうけれども、実際、これは造成して売れて始めて造成費も回収できるし、法人税や固定資産税も入ってくるとその辺の目論見がどこまで検討されているのかというのが一つと、それとお金がないから貧乏でしょうがないねということではなくて、寅さんの世界というのがあるわけですね。お金がなくても楽しく生活できるよと、そういうことをですね、愛西市としてどんなことを心がけていくかということもお聞きしたいです。というのは、私、信長生誕を育む会の事務局長をやっています、来週17日に勝幡小学校体育館でですね、生誕祭をやるわけです。市長さんにも来賓でお越し願うこととなっているようですけれども、こういう市民がワッと盛り上がってですね、あるいはマスコミに取り上げられて、市外の人が市内に来て落とすといってくるというような、我々がそんなにお金をかけなくても市の財政が潤うようなことを考えていくことも必要ではないかなと。その辺どう考えられている</p>

のかということが2つめです。

それと、お金がないなら効率的に市税を運営していかなければならないですけども、今、勝幡駅前整備がだいぶお金をかけて整備されました。いい点、悪い点いろいろあるかと思いますが、少なくともあそこの取り付け道路にマイクロバスだとかもう少し大きなバスが入れないと、例えば平和町に明治という会社が変わってききましたけど、そこへの通勤バスですとかね、あるいは、最寄駅は勝幡駅だよという形で勝幡駅の整備の時にもっとアピールをしてみてくださいね、その地域が潤うようなことを市としてやっていかなければならないのではないかと。先の3月25日も名鉄ハイキングでも勝幡駅で降りて津島の藤を見ましようというハイキングがありましたけれども、勝幡駅では愛西市の人は誰も出て、信長の話だとか、地域の特産がどうだとか、そういうアピールはしていなかったようです。ハイキングの後援は津島市観光協会だけでした。愛西市の観光協会はせっかくあってですね、そういうことをやっていないのか、宝の持ち腐れになっているのではないかと思います。

それとですね、もう一つ、勝幡駅前から勝幡城址に向かう道路沿いにプレートがはめ込んでありますね。勝幡城まであと何mと。これはですね、たぶん、電車でみえた人をご案内するプレートだと思いますけど、どちら側に張り付けてあるかご存知ですか。道路の左側なんです。歩く人は右側通行だといって教育委員会さんも生徒に教えていると思うんですけど、それが勝幡駅から勝幡城址に向かうプレートが左側についてると、これは非常に市の中でやっている行動が、非常に細かい話ですけどね、細かい具体例を言った方がわかるのであえて言ってますけど、ちゃらんぼらんじゃないかなと。普通の民間の会社だったら、夏のボーナスは、もうすぐボーナスが出ると思うのですが、20%くらいカットだよということになると思います。誰が悪いかということを追及してもらわんでもいいですけど、この辺りにソニーもありますけど、ソニーのビジネス書の中にですね、「傷ついた鶏を作るな」という本があります。お歳を召した方で家で鶏を飼ってみえた方みえると思いますが、鶏は傷ついて血を流すと、周りの鶏が全部その傷ついた鶏がつついて殺してしまうということを聞きます。今、ソニーの話をしたのはですね、要点としてこれをやった人が悪いからこの人を全員で問題だよという結論を出すなということなんです。この人がこういうことをやったから間違った判断だったと、犯人捜しをしているだけで改善にはな

	<p>らないわけです。そういう体質という市政が問題だよという、もっと広い意味でね反省していただいて、今言った矛盾点が出てくるのは、市政としてある意味たるんでいるのではないかと、市長には耳の痛い話ですけど、本当にね、若々しい市長さんを愛西市のトップに据えたわけですから、市長が率先して細かいところまで間違いないように導いていくというそういう形でひっばっていったきたいなど、これは市長の批判ではなくて、市長の応援団としての話ですのでよろしくお願いします。以上です</p>
市長	<p>ありがとうございます。簡単に私から今の質問についてお答えをさせていただきますけれども、自主防災会と行政との情報共有というのは、私どもといたしましても、やっていかなければならないと思っております。現在、皆様方もご存知のとおり、東日本大震災が起きる前までと起きた後では、災害に対する考え方も変わりました。東日本大震災から月日が経つうちに少しずつ危機感も薄れてきているということも事実であると思っております。そういった中で、私ども行政といたしまして、防災に対して、皆様方多くの皆様方に参加をしていただいて、少しでも意識を持っていただきたいと思っております。自主防災会の方々、地域の方々のご協力をいただきまして訓練等にできるだけ多くの方に参加をしていただくことから、まず、今は始めなければならないのではないかと思います。災害が発生した後ですね、どのようなことを自主防災会でやっていただければならないということも担当、安全対策課というところが担当になっておりますが、そのメンバーを中心にいろいろな状況を想定しながらやっていかなければならないと思っておりますので、自主防災会の方々との意見交換など、自主防災会同士の意見交換なども進めていくことが必要ではないかというふうに思っております。</p> <p>2点目の税収確保につきましては、愛西市になって初めて企業誘致を県の企業庁からOKをいただきまして、ご指摘のとおり、これはまだ始まったばかりで成功したわけではございませんので、今後着実に今認可が下りているところに企業に来ていただいて、固定資産税も入りますし、法人税も獲得できればいいなと思っております。現在もその整備に向けて愛知県企業庁と連携をしながら、あるいは県の関係機関と連携しながら財源確保、それから地域活性化のために今後も努力していきたいというふうに思っております。特に今回は、佐織地区の南河田地区ということでございますので、地域の皆</p>

	<p>さん方のご理解ご協力をいただきながらやっていきたいと思っております。</p> <p>また、財源が少ないからではなくて、少ない収入でも楽しい、明るい町づくりをしなければならないということで、当然私どももそういうことも必要であると思っております。そのためにも関係している多くの方々に、さまざまな団体さんやイベントなどに積極的にご参加をいただくことがまず必要ではないかと思っております。今まで10年間活動されてこたれた方、また新たに活動を始められた方、さまざまな考え方をお持ちの方がおみえになりますので、できるだけ積極的に年代を問わず、皆が外に出ていただいて活動していただきたいと、そのことが活力ある愛西市につながっていくのではないかなというふうに思っておりますので、私ども行政といたしましても積極的にそういった活動に対してバックアップをしていかなければならないと考えております。</p> <p>先ほどのプレートのこともございましたが、一度この件については、このあたりだろうなということは何となく覚えておりますが、一度確認をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。やはり、皆さんがいっしょになってやっていくと、誰がやっていくのではなく、皆と一緒にやっていくことが愛西市の活力につながっていくと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力をいただきたいと思います。以上です。</p>
市民B	<p>今日お集まりの皆様はほとんど旧佐織町ですとか、八開、立田の北部の方が多いかと思っております。この地域は、市長がおっしゃったように洪水ですね。水の被害というところを非常に心配しております、強調されていたのがですね、自助力、逃げるということですね。いざ水が迫ってきたと我々どこに逃げるかというところがございますけれども、やはり提携の避難場所、その他に小学校ですとか、中学校ですとか、そして目比川の決壊の時にですね、皆さん記憶に鮮明の方もいらっしゃるかと思っておりますが、佐織の庁舎ですとか、佐織の公民館に逃げ込むというところがすぐに考えられる避難場所かと思っております。そして、その佐織庁舎は頑丈なコンクリート構造で、そのまま避難場所と使えますと、費用をかけなくても使える避難場所であると、これをですね、今後の市の支所の再整備というところで、撤去、壊して撤去してしまうということで、我々の避難場所として大変重要な拠点がなくなってしまうということをたいへん危惧しております。</p>

	<p>あと自助力という点では愛西市全体で公共の下水道、これは非常に費用がかかる。道路をひっぺ返してですね、コンクリートの道管を通すわけですから非常に費用がかかることをやっております、市のホームページでも古瀬、千引、南河田の整備が非常に進んできて、いよいよ供用を開始しますとアナウンスが出ております。ただ、この公共下水道というのは災害に非常に弱い。東日本大震災でも私の職場でもですね、実際に被害にあった方がみえますけれども、一番困るのは下水の問題、要するに汚物が流れなくなってしまって、お風呂場とかにいったんためて汚物を袋に入れて、汚物をバキュームカーみたいなものを持っていかなければならない。電気も東日本大震災の時に止まりましたので、汚物を持って階段を上ったり、下りたりしなければなりません。愛西市の場合は平地ですので、そういった心配はされていないのかもしれませんが、渕高の駅前にも立派なマンションがありますし、汚物をどうするかというのは非常に大問題だと思いますね。合併浄化槽というものがあまして、これですといわゆる自助、家々単位でやれますので、被害が一斉に起きても、公共下水道みたいに汚物を流すシステムがダウンするということはない、個別にありますからね、こういう点で私は合併浄化槽の方が市の財政にも優しいし、よろしいのではないかと思います。今後とも公共下水道の整備を進めていくのかというあたりの話を聞かせていただきたいと思います。要するに汚物が流れないということで、これはマスコミが作った用語ですけども浦安あたりの高級住宅地、海が近いということでマリネーゼというセレブな方が住んでみえますけれども、それも汚物が流れねーぜと言われたりですとか、茶化されることもありましたので、非常にその辺の問題を心配しております。お願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>佐織庁舎についてでございますが、皆さんもご承知のとおり、佐織庁舎は何回もわけて庁舎が建設をされているということで、現在、計画をさせていただいておりますのは、まず、耐震性のない部分については取り壊させていただいて、耐震性のある新しい部分を使わせていただいて窓口サービスを提供させていただきたいと思っております。先ほどお話がございましたが、避難所となる部分が少なくなるというお話もございましたが、現状、庁舎はすべて避難所として指定はしておりませんが、先ほど申しましたが市内では54か所避難所の指定をさせていただいております。実際災害が起きた場合、どこに逃げるのかということは、いつどこで発生</p>

	<p>するかわかりませんので、その中でより安全なところへ皆様方は逃げさせていただく必要があるだろうと思っております。今、この場でも災害が起きるかもしれませんので、そういった部分もしっかりと考慮していただきたいと思います。</p> <p>あと下水道のお話ありがとうございました。下水につきましては、災害が起きた時、トイレの問題等は十分認識しているつもりでございます。そういった部分でも非常用のトイレ等も先ほどもご説明させていただきましたが、できるだけ災害が起きた時に多くの方に不便をかけないようにしていかなければならないと思っております。公共下水道につきましては、県からの日光下流すべてで公共下水道整備が進められております。愛西市におきましては、旧の八開地区、立田地区につきましては、農業集落排水ですべて整備が済んでおりまして、佐織、佐屋につきましては、現在公共下水道事業が現在進んでおります。質問にありましており、合併浄化槽につきましても、今はたいへん性能もいいものも優れたものもどんどん出てきておりますので、そういった部分もしっかり市としましては技術的な部分も含めて費用的な部分も含めて考えていく部分の一つと考えております。以上簡単ではございますが、答えとさせていただきます。</p>
市民C	<p>お聞きしたいことは、自主防災会のあり方についてですけど、100%の地域できているということですが、これの頭になるといいますか、役員になるといいますか、それがですね、たぶん、毎年総代さんが替わっていくたびに、その総代さんの下につく役員が中心となってやっているのですが、他もたぶんそうだと思いますが、これはその年その年で、ここの溯高の場合で言いますと、毎年コミュニティーで訓練をやられるのですが、やはり、その年度の方が終わったら知らんよというわけではないのですが、組織的にはそんなふうに流れておると思うんです。ただ、これはいざという時にはまずいと。ですから、市の指導で3年くらいは重なって役員をやってそれから卒業するという形でしていかないととぎれてしまうもんですから、全く無責任な状態というか、どうやってやっていったらいいかわからんような状態だと思う。ですからそれをひとつ市の方でね、そんなような仕組みづくりを考えてほしい。以上です。</p>
市長	<p>ただいまの自主防災会のリーダーの方の人選につきましては、それぞれの自主防災会、自主防災会のお考え等もございますので、毎年替わられるところもございますし、市内で替わらないところもあります。組織としての考えもございますので、その辺を市として複</p>

	<p>数年リーダーをやってくださいと指導するのはなかなか難しいのではないかと思います。もし、組織の皆さんからのご意見でそういった指導をしていきたいという意見がありましたら、そういった説明もさせてはいただきますけれども、その組織の中にいる1人の方、2人の方のそういうお考えなのか、皆さんがお考えなのかわかりませんので、その辺はまず、組織の中でじっくり考えていただく必要があるのではないかと考えております。よろしくおねがいします。</p>
市民D	<p>消防団の新入団員の確保について質問いたします。私は西川端、余代、淵高で組織しています佐織第5分団に所属しています。毎年、団員の入れ替え時には、地元の自治会や団員個人が次期入団捜しにたいへん苦慮しています。これは若年層の人口の減少、核家族化、生活の多様性などさまざまな要因が考えられますが、団員探しを地元自治会等をお願いする今までの方法だけでは限界に近づいているのではないかと思います。そこで、市から一定の年齢層に対して、個別に郵送等で消防団活動のPRや個別に対象者に消防団活動に対する意識調査を行っていただき、これらの情報を各分団に還元していただけないかというのが質問でございます。これは日頃から消防団活動に対して、一定の年齢層の方に個別に働きかけるというか、お知らせすることで新たな団員の確保につながるのではないかと実際に団員をやっている立場から考えるものです。お考えをお聞かせください。</p>
市長	<p>消防団につきましては、常日頃の消防団活動、地域のつながりと大変重要な団だと思っております。消防団の新たな団員の確保の難しさも十分認識をしておりますので、今言われた個別のPRや意識調査は今後検討課題の一つとして、私どもも新たに消防団員になっていただきたい方が増えることをたいへん期待をしておりますので、PR活動等今後検討していきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p>